

## セミナーの概要

【開催日時】 12月8日（金曜日） 午後1時30分から午後4時30分まで

【開催場所】 都庁第一本庁舎大会議場

【開催目的】 障害者総合支援法における相談支援体制等、東京における共通課題や取組、協議会活動の活性化策などについて、都協議会本会議の検討等を踏まえた講演及びパネルディスカッションを実施することにより、広く関係者への情報発信を行う。

【受講者】 全体参加者数 428人

■一般申込者数 388人

■都協議会関係者等数 40人

所属（内訳）	※（複数回答）
地域自立支援協議会委員等関係者	51人
行政（協議会所管等 保健所除く）	68人
障害当事者・家族	55人
相談支援事業所	71人
障害福祉サービス事業所	106人
地域包括支援センター	44人
介護事業所（高齢者）	21人
民生委員・児童委員	11人
保健所	3人
その他	36人

所属（内訳）	人数
都協議会委員	14人
連絡調整会議委員	8人
心障センター職員等	18人

## 【プログラム】

【テーマ】 超高齢社会における障害者と家族

～「8050」「老障介護」で孤立する家族を地域でどう支えるか～

＜第1部＞基調講演「超高齢社会における障害者と家族」

東洋大学 ライフデザイン学部生活支援学科 教授 白石 弘巳 氏

＜第2部＞パネルディスカッション

『8050』『老障介護』問題の現状と地域での取組

パネリスト

東京都自立支援協議会委員（社会福祉法人東京緑新会 多摩療護園 園長）

平井 寛 氏

特定非営利活動法人楽の会リーラ 事務局長

市川 乙允 氏

世田谷区北沢総合支所 保健福祉課 障害支援担当 係長 長 隆之 氏

コーディネーター

東京都自立支援協議会会長（武蔵野大学 人間科学部人間科学科 教授）

岩本 操 氏

コメンテーター

東洋大学 ライフデザイン学部生活支援学科 教授 白石 弘巳氏

## 第1部・基調講演（概要）

「超高齢社会における障害者と家族」 教授 白石 弘巳 氏

### ■はじめに

- ・ゆったりと人がつながって、負けないで生きていける社会というものができるように、どうしたらいいのかについて参考になる話をしたい。
- ・8050とか老障介護といわれている問題の背景に、日本は、2016年には高齢化率26.7%の超高齢社会となるということがある。
- ・老障介護の大変さを訴えるご家族、亡き母に対する思いを綴った患者さんからの手紙の2通を紹介。

### ■超高齢社会の日本の現状

- ・戦後、乳幼児の死亡の減少、60歳までに亡くなる人の割合が非常に少なくなっている。平成17年頃に死亡数と出生数は同数、平成19年から出生数より死亡数が増加し、約10年前から人口減少時代に入っている。
- ・2025年までに、高齢者の福祉等に耐えられる社会保障システムづくりが宿題。
- ・1955年には世帯構成員が6人以上の世帯が最多だったが、1995年以降2人と単身世帯が多くなり、特に単身世帯の割合の増加が顕著となる。1995年頃から生活保護世帯の増加が見られ、高齢者単身世帯、高齢者と障害者の世帯などの割合が多くなっている。

### ■障害をもつ人と家族の実情

- ・高齢の親御さんと障害をもつ方が暮らしているところで、どんなことが起きているか見聞きたいいくつかの事例を紹介。
- ・父親の相談がきっかけで、クリニックから往診を始めた約4ヶ月後に、往診の連絡をすると息子が「父は今いない」という。別居している姉の訪問により、息子が病死した父を放置していたことが判明。
- ・家族の痛ましい事件を踏まえ、精神障害の団体や家族会などで、「親あるうちの自立」を考えねばというようになる。
- ・見えてくる課題と現実、障害をもつ子が親の希望する支援を受けられないこと。親が望む社会資源が十分に存在していないこと。「親亡きあと」に関する情報が得られない、もしくは不安を解消できないこと、親の心理的状況は、障害のある子供を自分と同一視してしまいがちで、心の余裕を持って思い詰めてしまうことにある。

### ■障害をもつ人の支援の在り方

- ・国の施策の方向性として、ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護、予防のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスが提供されることのできるような「地域包括ケアシステム」がある。
- ・その人らしく暮らすために、「家族丸ごと」の支援が可能となるような柔軟性を持たせることが必要。
- ・一般法人を立ち上げ、メリデン版訪問家族支援プログラム（家族全員がそれぞれの自立に向けて会話し、協力関係の中で、問題解決する能力をつけるための技法）の普及に取り組んでいる。
- ・求めて来ない人にも関わること（アウトリーチ）が大事。支援者のneedを解決する前に、まず、本人のwishから関与する。
- ・支援としてのコミュニケーションは、対立せず共存できるように、相手を理解し肯定する。その上で、本人のニーズへの「表面化」を踏まえたエンパワメント支援という考え方が重要。様々なレベルの幅広い支援のネットワークを作る必要がある。
- まとめ「ゆったりとつながり、負けないで生きていける社会を」
- ・最近、ソーシャル・キャピタルという言葉がとても重要と思う。柔軟性を持ってたくさんの人が緩くつながり合えるような制度・システムが大事。そういう意味で、あらゆる人が社会の一員として8050問題を考えていくことが必要ではないか。

## 第2部・パネルディスカッション（概要）

◆平井寛氏（事業者の立場から）	◆市川乙允氏（家族会の活動に携わる立場から）	◆長隆之氏（区職員の立場から）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度身障の施設入所者は待機者の1割ほど</li> <li>・どの種別も障害が重くなってきて、地域に対するセーフティネット機能が求められている状況</li> <li>・身体・知的障害分野において、本人と親にとって抱える課題が解決しないまま、最終段階にきてしまったいくつかの例を紹介</li> <li>・寄り添いながら相談が可能なコミュニティづくり、早い段階からの支援サービス利用体験の推進、制度・種別を越えた連携・協働の継続的な支援ネットワーク、ライフステージに沿った集中的な支援体制の強化及び地域の生活支援拠点づくりが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・娘の不登校・ひきこもりをきっかけで、親の会に関わり、20余年になる。</li> <li>・応援体制、本人支援、家族支援というふうな形で、あくまでも家族あるいは本人に寄り添ってやっていくことが非常に大事</li> <li>・まず、地域に自主的な家族会、そして居場所をつくって、孤立しがちな家族の皆さんが一人でも多く、こういう家族会につなぐということで孤立を防止する。</li> <li>・自立相談窓口等の支援機関にもつなぐことも大事。そういうところとつながりながら、引きこもりからの回復を目指してやっていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内を5つの「地域」に分け、更に、27の地区に細分化し、区の行政拠点であるまちづくりセンターを設置</li> <li>・高齢者や障害者、子育て家庭など誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるような地域包括ケアシステムの構築を目指す。</li> <li>・三者（まちづくりセンターと地域包括支援センター、社会福祉協議会）連携により、相談支援の充実につながった事例を紹介</li> <li>・地域包括ケアシステムの実現に向けて、縦割りではなく、各機関が連携すること、インフォーマルなサービスの開発等も含めた取組を着実に実施していく。</li> </ul>

### ◆コーディネーター 岩本 操氏

・「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現のもとに、最初の個別の相談に丁寧に乗ってしっかり関わっていくこと、非常に基本的なことではあるが、私たちの支えられるというのにはまさにそういった関係性においてということをお三方の話を受けて感じた。

### ◆コメンテーター 白石弘巳氏

- ・支援が必要な人に今ある支援を届けるのが難しいということが8050問題とか老障問題につながっていると思う。
- ・支援を受けるといって一番最初のところが実は一番大きな問題であることをまず認識する必要がある。
- ・相談支援とは、情報提供ではない。意思決定や自己決定を支援するというのを、大学で教えている。
- ・関わり続け見守り続けられるような関係をつくるのが大事で、そういう思いを持って関わられる人というのを、どういう風にして作っていくかということが問われているのではないか。

## アンケートの概要

第1部 今後、8050問題を考える上で、多くのヒントとなる示唆を

いただき、とても参考になった。先生の「ゆったりとつながる」という言葉にとっても共感を覚えた。

第2部 具体的支援事例として、施設、家族会、行政の立場で対比的に話を聞くことができ興味深かった。支援については、これで完結という性格のものではないと思う。今後も様々な事例から学ぶことは重要と改めて認識させられた。

（単位：人）

回答（272人）	第1部	第2部
大変参考になった	82	78
参考になった	161	146
普通	17	23
あまり参考にならなかった	5	6
全く参考にならなかった	0	1
無回答	7	18